**オリヴィエ・シャルリエ(ヴァイオリン)　Olivier Charlier(Vn.)**10歳でパリ国立高等音楽院に入学、ジャン・フルニエやピエール・ドゥカンらに師事。17歳でミュンヘン国際コンクール第3位に入賞後、モントリオール、ロン＝ティボー、インディアナポリスなどの国際コンクールで入賞を重ねた。その後、フランス国立管弦楽団やロンドン・フィルなど、世界各地の著名オーケストラと共演し、内なる情熱と成熟が織りなす特異な存在感で聴衆を魅了している。また、BBCフィルとの協力で新作初演や演奏機会の少ない作品にも意欲的に取り組んでいる。室内楽にも情熱を注ぎ、数多くの音楽祭に出演するほか、20歳から若手の指導も行い、伝統の継承に貢献している。使用楽器は1747年製カルロ・ベルゴンツィ。

**エマニュエル・シュトロッセ(ピアノ) Emmanuel Strosser (Pf.)**ストラスブール出身のピアニストで、エレーヌ・ボスシに師事した。パリ国立高等音楽院でジャン＝クロード・ペネティエやクリスチャン・イヴァルディから指導を受け、その後レオン・フライシャー、ディミトリ・バシキロフ、マリア・ジョアン・ピレスと共に研鑽を積む。1991年のクララ・ハスキル・コンクールでファイナリストとなり、フィレンツェ国際室内楽コンクールでも受賞。フランス放送フィルやリール管弦楽団と共演し、現在はパリ国立高等音楽院とIESMエクス・アン・プロヴァンスの教授を務めている。各地の音楽祭でも活躍し、その音楽的洞察は高く評価されている。

**浜野考史(ヴァイオリン) Takashi Hamano (Vn.)**

1984年から全日本学生コンクールで7年続けて上位入賞。2014年から2017年の間にパリ・スコラカントルムで学び、ディプロムを取得。渡仏以前は東京シティフィル、新星日響や東京フィルなど数多くの日本のオーケストラでコンサートマスターの客演、海外ではウクライナ、韓国のオーケストラと共演。2005年からはバレエダンサー熊川氏に招かれ、ソロコンサートマスターを務め「白鳥の湖」等の名演を残してきた。また2022年には英国ロイヤルバレエ・ガラコンサートにソリストとして出演し好評を得る。室内楽では日本の作曲家による作品群を後世に伝えることに情熱を注ぎ、20代より数多くの録音を残し続けている。2024年10月、パリ・エラールフェスティバルに於いて武満やフォーレを演奏。2014年からオリヴィエ・シャルリエ氏の門を叩き、現在も継続。日仏両国で活躍を広げている。